

漢方と現代病 3

「將軍の官」の 肝臓と目・睡眠・精神的病氣

「肝腎」の言葉の通り、肝臓は漢方医学では重要な臓器で、内臓的な疾患だけではなく目、耳、睡眠、精神的な様々な症状、病氣と関係があり、今回は「五臓」の肝臓をお話します。

漢方の肝臓 「將軍の官」

漢方古典の「黄帝内径・素問」に、肝臓は「將軍の官」「主排泄・蔵血」と言われ、肝臓の「腑」の胆のうは「中正の官」と言われ、つまり肝臓は胆のうと一緒に「肝胆系」として働き、解毒と血液を貯存する機能のほかに気血の疎泄、筋肉運動機能も関係があります。また肺臓、脾臓、腎臓と関連し、お互いに影響しています。例えば、肝臓の気が滞っている時、脾臓と胃腸に悪影響を及ぼして食欲不振、胃痛、腹痛、吐き気、下痢などの症状が表れます。また、腎臓に悪影響すると、めまい、耳鳴り、足腰のだるさ、四肢のしびれ、排尿難、便秘などの症状が現れます。

逆に肺臓、脾臓、腎臓などを強めれば、肝機能の改善につながると考えられます。

肝臓と目の病氣・睡眠・精神的病氣

漢方医学では、肝臓は「開竅於目」と言われ、肝臓の機能は目に現れます。例えば、肝血不足の場合は目の乾燥、視力低下、目のかすみなどの症状が現れます。したがって、肝臓腎臓を強め、目の血流を良くすれば、目の様々な症状が改善されるだけでなく、白内障や緑内障のほかに黄斑変性症、網膜色素変性症など目の難病も著しく改善されます。

また、漢方の肝臓は「春の木」に当たり、春の木のよう伸びる、風が生まれると考えます。したがって不安、不眠、イライラ、怒り、そううつなどの精神的な症状は肝臓とも関係があると考えます。この考え方は、春にうつ病、



中国漢方医師
医学博士
侯殿昌先生
こう 殿 しょう

1963年中国山東省生まれ。85年中国維坊医学院臨床医療学部卒業。94年東北大学医学部留学。99年同大学院にて医学博士号を取得。専門：難病、がんの漢方治療。現在、国際伝統現代結合腫瘍学会(SIO)会員、日本統合医療学会(JIM)会員、日本東洋医学会会員、日本小児東洋医学会会員。

懐仁堂漢方薬局 福島店
<http://www.kajindou.com/>

- 住 所 福島市万世町2-8 P/有り
- 電 話 024-526-2581
- 相 談 日 【要予約】
毎週月曜日、水曜日
- 営業時間 AM10:00~PM6:00
- 定 休 日 日曜日、祝日
- 仙 台 店 ☎022-718-5858
- 山 形 店 ☎023-632-8007

統合失調症などの症状が悪化し、再発しやすいのと一致しています。漢方で「疎肝解鬱、瀉火安神」により、様々な精神的病氣、不眠症にも効果があります。

優れた肝臓の漢方薬

漢方には昔から様々な肝臓病の治療経験があります。例えば、肝炎は「黄疸」、脂肪肝は「積聚」、肝硬変は「膨脹」「癥瘕」、肝がんは「肝癌」です。歴史の中に優れた処方「沢山あり、漢の時代の張仲景の処方「小柴胡湯」「茵陳蒿湯」、金の時代の李東垣の処方「竜胆瀉肝湯」などは、各肝炎、肝硬変、腹水、肝がんなど肝臓病に応用できます。「茵陳五苓散」は「疎肝胆胆、滋腎利水」により、肝機能と黄胆を改善、腹水とむくみを治す効果は、最近の日本東洋医学会で発表されました。また、清熱解毒の漢方薬により肝炎ウイルスを抑えることもできます。

ご存知の通り、慢性肝炎を放置しておくと、死亡率の高い肝硬変、肝臓がんに進みますので、病院治療と漢方薬の併用は一番の理想と考えられています。